

平成 25(2013)年度  
大学生の力を活用した集落活性化調査委託事業 報告書



湯ノ花



2014 年 3 月

宇都宮大学 福島集落活性化し隊

## 【目次】

I.はじめに	3
(1)プロジェクト研究の紹介	
(2)湯ノ花集落の概要	
(3)福島集落活性化し隊の紹介	
(4)実施スケジュール	
II.1年間の活動	5
(1)活動内容の詳細	
(2)参加した湯ノ花のイベント	
III.湯ノ花の課題	11
IV.企画・提案	12
(1)集落活性化案① 「宇都宮市でのPR活動」	
(2)集落活性化案② 「湯ノ花温泉の利用改善」	
V.おわりに	16
—これまでとこれから—	



# I. はじめに

## (1)プロジェクト研究の紹介

私たちが所属する、宇都宮大学教育学部総合人間形成課程では、2、3年時に必修授業として、「プロジェクト研究」という実践力養成型の授業があります。プロジェクト研究とは、担当教員の指導の下に、学生自らが立案・計画、参加観察、発信、実施等に携わる経験をして、社会的交流ならびに社会貢献を意図した実践的活動を行う授業です。都市計画等を専門研究とされている、陣内雄次教授率いるプロジェクト研究では、学生が主体となってまちづくりに携わることで、社会人になってから必要とされる能力を研ぎ、自己の成長をはかることを目的としています。

## (2)湯ノ花集落の概要

- ・人口：237人(男性117人、女性120人)
- ・位置：福島県南会津町、旧館岩村に属する
- ・世帯：89世帯
- ・主な産業：農業、観光
- ・歴史：湯ノ花温泉は、700年前の鎌倉時代に発見されたと伝えられ、幕末の来沢藩士、雲井龍雄も利用したと考えられている。湯ノ岐川の上流から順に湯端の湯、天神湯、弘法の湯、石湯の4つの共同浴場があり毎朝地元の人が湯を落とし掃除をして使用している。泉質はいずれもナトリウムやカルシウムを含む単純泉で、婦人病、神経痛、疲労回復等に効果がある。

館岩には腕の良い職人さんが多く、雪が深いため、しっかりした構造の建物がつくられてきた。丁寧に探すと、由緒ある建物や素晴らしい職人技を見つけることができる。

館岩村には昔から知られる湯ノ花温泉があり、始まりは鎌倉時代といわれている。清流湯ノ岐川沿いに点在する四つの共同浴場は、疲れを癒す温泉として、地元の人にはもちろん、登山者や釣客にも利用され愛され続けている。共同浴場を中心に旅館、民宿が点在し、豊かな自然と素朴な人情を心ゆくまで楽しむことができる。



### (3). 福島集落活性化し隊の紹介

#### ○実施者

宇都宮大学教育学部総合人間形成課程 2、3年生 計9名

#### 【3年】

佐川拓也（代表）  
中木美佳（副代表）  
田名網清香  
三津谷薫  
山中青空

#### 【2年】

小島美咲  
庄司香奈絵  
武井悠  
湯村楓



#### ○指導者

陣内雄次（宇都宮大学教育学部教授）

#### ○協力者

板谷洋介（もりよし食堂店主）

植木花乃（宇都宮大学教育学部総合人間形成課程3年）

### (4)実施スケジュール

日時	内容
6月	メンバー顔合わせ、湯の花集落についての下調べ プロフィールカードの作成
8月10日	湯ノ花集落区長さんたちとの事前打ち合わせ
9月20日	勉強会：ワークショップの手法について学ぶ
10月	第1回調査（1泊2日）
5日～6日	1日目：集落のフィールドワーク 2日目：集落の方々との意見交換会
12月1日	第2回調査 収穫祭への参加
1月 15日～16日	歳之神への参加、湯の花集落の民宿体験
1月31日	福島県知事表敬訪問
2月1日	地域づくりオープンカフェでの発表会
3月22日	今年度の調査報告会

## II.1 年間の活動

### (1) 活動内容の詳細

#### 事前打ち合わせ

##### ○目的

- ・メンバー内での意識の共有化
- ・実施調査に先駆けての事前学習

##### ○内容

まず、各自インターネットや本で調べた情報を基に、実施調査前段階として、湯ノ花やこれから行う活動について具体的なイメージを膨らませていった。人口や現地の気候といった基本データから、地元の名産・名所といったものや直面している問題についても可能な限り探し出していった。話し合いでは議論の対象や構造、「何について、どのように話をしているのか」が明確になるよう、発言を記録・図式化しつつ議論を進め、全員で認識を一致させ知識や心構えを共有していった。その中で、なぜプロジェクトを選んだかという理由や、勉強を通して湯ノ花について思ったこと、今の自分たちにできることなどについて話し合った。その中ではやはり、様々な自然や名産品などの魅力があるにも関わらず情報の発信が不足・探しにくさが共通の問題点として挙げられており、今後も着目していくべき点であると感じた。

また第一回調査に向けて、アイスブレイキングの役割も兼ねたプロフィールカードの作成を行った。



↑ 班員が作成したプロフィールカード

## 第1回湯ノ花実態調査

実施日：10月5日（土）、6日（日）

### ○目的

- ・湯ノ花の魅力・改善点を見つける
- ・湯ノ花の人が抱える課題を探る

### ○活動内容

- ・住民と学生でフィールドワーク
- ・湯ノ花の魅力と改善点のまとめ

### (1日目)

- ・まち歩き、フィールドワーク
- ・湯ノ花の現状分析

### (2日目)

- ・1日目調査のまとめ報告、住民の方々との意見交換ワークショップ

1日目のフィールドワークは2つの班に分かれて行った。リーダーの他チェキ係、デジカメ係、地図係と役割を分担し、初めて訪れる湯ノ花について事前に調査したことを踏まえつつ記録を行った。

ワークショップの中では、湯ノ花の魅力の一つであると考えていた、民宿経営の厳しい現状や、仕事がないために若い人が出て行ってしまふ事の重大さを知った。活性化事業に取り組むにあたり心構えを今一度再確認し、現地を訪れたからこそ得られたことを以降のミーティングや案に活かしていきたい。また、ビジネス面を意識した上での具体案についても検討していく必要があると感じた。

今後の具体的な取り組みとしては、「地域資源お宝発見表の作成」、「Facebook『湯の花ファンクラブ』開始」の二つを決定事項とした。

↓ 1日目のまち歩きの様子



↑ 2日目の意見交換会の様子



↑ Facebook の PR ページ

## 第2回湯ノ花実態調査

実施日：12月1日（日）

### ○目的

- ・湯ノ花の将来像（＝目標）を共有する
- ・住民の方に当事者意識をもってもらう

### ○内容

湯ノ花の収穫祭に参加後、プロジェクトの活動報告会と湯ノ花の10年後の将来ビジョンについてのワークショップを行った。収穫祭では伝統芸能や郷土料理などを肌で体感することができ、湯ノ花への思い入れを深めるのと同時に次の報告会・ワークショップへと繋げる良いアイスブレイキングにもなった。

報告会では、前回調査以降に行った埼玉の方へのアンケート集計結果、お宝シート、二日間の調査のまとめの資料を集落の方々に渡し、要点について説明した。ワークショップではそれらを基に4グループに分かれ、それぞれ話し合いを進めた。グループで出された意見を更にまとめ、湯ノ花の将来ビジョンを「何度も訪れたいまち」とすることを集落の方々と決定し、共有した。その中の主な案としては、「広域的な連携、総合力、サポーター制度導入」「学生だけでなく、湯ノ花の人も『主体的』に行う」、「人と人のつながりによる既存のものを活かしたまちづくり」といったものが挙げられる。また、その他にも細かく企画として挙げられたたくさんの案を基に、より具体的な企画をこれから考えていくことになった。



↑ 収穫祭の様子



↑ 収穫祭後に行った「10年後の湯の花集落」について学生とまちの人たちとで考えた。

## 地域づくりオープンカフェ(活動報告会)

実施日：2月1日(土)

### ○目的

- ・各グループの学生や集落住民、一般県民が意見を交わし、各グループの活性化策に磨きをかける
- ・集落の活性化に向けた住民主体の取組を促進する

### ○内容

事業を行う際“2年”という期間の短さをし、2年関わった形として何らかの成果を残したいと思うようになった。

集落と2年関わってきた他のグループでは、一年多い期間の中で信頼関係が築かれていることやヒアリングを通して集落の人々の意見を聞くことができていると感じた。そうしたグループの発表を通して、集落の方々と深い信頼関係を築くには、「一緒に」何かを作ることがポイントであると考えた。よって、湯ノ花でも地域の特産品を地域の人と一緒に作ることで信頼関係を深められたらと思う。同様に他グループと比較することに関して、湯の花の良い所にも新たに気付くことができた。他の集落に比べて湯の花集落は人口も多く元気な人が多いため、その点から拓ける可能性もでてくることと思う。

また、『楽しさ』という面をもっと追究したいと考える。今後このプロジェクトに新しく加わる人に関しても、いい意味でまじめすぎず、地元の人も楽しく参加してもらい、それらのことを通して、信頼関係を築いていきたい。



↑地域づくりオープンカフェでの発表会の様子

## (2)参加したイ湯ノ花のイベント

### 収穫祭

平成 25 年 12 月 1 日 収穫祭

・ 私たちは収穫祭当日の料理の準備や後片付けのお手伝いをさせていただきました。収穫されたお米で作る、餅つき体験もさせていただきました。杵と臼を使った餅つきは私たちにとって初体験であり、貴重な体験であった。

↓ 収穫祭での餅つきの様子



・ 収穫祭が始まり、集落の方々とお餅や湯ノ花の特産品である赤カブの漬物など、たくさんの料理をいただきながら、伝統芸能の踊りの鑑賞をした。集落の方々とお話をしながら、湯ノ花の文化や味を楽しむことができた。収穫祭にはたくさんの人が駆けつけ、大盛況であった。地元の人たちが協力し合って準備をしている様子を見て、改めて人と人とのつながりが深いまちなのだと再認識した。



↑ 収穫祭に訪れたまちの方々

・ 伝統芸能を鑑賞する場では、歌を歌ったり、簡単な踊りを踊ったりと、にぎやかで楽しい時間を過ごすことができた。お餅の料理や地元で作られた漬物、方言によって語られた昔話、湯ノ花小唄など、湯ノ花ならではの文化を大切にしていきたいと強く感じた。



↑ 伝統芸能を披露してくださった「たじまや」のみなさん

## 歳之神

平成 26 年 1 月 11 日、12 日 歳之神

・「歳之神」とは、年初めに行われ無病息災を願う伝統の火祭りである。昨年神棚に飾ったしめ縄やお供え物をお焚き上げして歳神様を天にお送りし、今年一年の五穀豊穰、無病息災を願うもの。この歳之神の火で焼いたお餅を食べ、一年の安全を祈願した。



↑まちの人たちが協力して作り上げた  
巨大な歳之神



↑木に餅を刺して神の火で餅を焼  
いているまちの人の様子

## ○お世話になった民宿：「かじや」さん

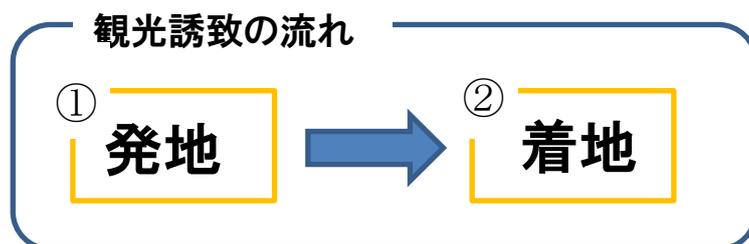


かじやさんのおもてなしのおかげで、リラックスして過ごすことができました。料理の種類も豊富で、どれもおいしく、南会津の食文化を堪能できました！ありがとうございました！

### Ⅲ.湯ノ花の課題

湯ノ花が抱える最大の課題であり、湯ノ花の活性化に最も必要なのは、情報発信である。湯ノ花はこの情報発信が不足しており、たくさんの魅力的な資源を十分に発揮できていない。これは、1年間の調査を通してわかったことであり、湯ノ花集落の人も感じている課題である。

観光計画において、顧客に対して質の高い情報をどのように提供し、情報発信元である場所にわざわざお金と時間を使ってでも行きたいと感じさせられるかがポイントである。観光誘致には、発地型の情報発信と着地型の情報発信がある。発地型とは、湯ノ花側から外部への情報提供のことで、前述したように、顧客に足をはこんでもらえるように質の高い情報と発信方法が求められる。着地型とは、発地により足を運んでくれた顧客に対しての情報提供である。湯ノ花の売りはなんなのか、どのような観光資源があるのか、顧客に満足してもらい、お金を落としても良いと思わせるきっかけを与えられるかが重要である。この発地から着地までの流れができて、はじめて観光誘致となりうる。したがって、湯ノ花はこの発地と着地の観光誘致に力を入れていく必要がある。



- ① 発地——誘致する地点から外部への情報提供。顧客に足を運んでもらうためのきっかけを与える

例)湯ノ花→宇都宮 ・新そば祭りのチラシ配り  
・民宿のホームページ

- ② 着地——①により足を運んでくれた観光客や旅行者を受け入れる地域が自分たちの持つ観光資源の情報を提供することでお金を使ってもらえるきっかけを与える

例) ・湯ノ花観光ツアー  
・そば打ち体験  
・観光パンフレット

## IV.企画・提案

### 《湯ノ花観光誘致ストーリー》

#### (1) 集落活性化案 ① 発地型 「宇都宮でのPR活動」

##### 1、現状・課題

課題として、湯ノ花の魅力の情報発信不足が挙げられる。湯ノ花にはたくさんの魅力があるので、知る機会を作る事で、多くの人に湯ノ花を好きになってもらえると考えます。

##### 2、目的・内容

宇都宮市内のイベントに出店し、「湯ノ花」の名前や魅力を多くの人に知ってもらう。具体的には、二荒山神社バンバ広場でのイベントや宇都宮大学峰ヶ丘祭で湯ノ花の特産物である、蕎麦やはちみつ、初恋漬けなどの販売を行う。ターゲットとしては、湯ノ花のことを知らない宇都宮市民である。

宇都宮大学峰ヶ丘祭は日程としては11月頃となっており、大学生などの若者に湯ノ花のことを知ってもらう貴重な機会である。



二荒山神社バンバ広場のイベント



宇都宮大学峰ヶ丘祭



### 3、実施者

私たち福島集落活性化し隊はもちろんだが、湯ノ花集落の方にも一緒に参加して頂くことを考えている。

### 4、予算

二荒山神社バンバ広場でのイベントでの具体的な費用は、終日半面の利用に 3000 円、テントのレンタルに 2000 円、長テーブルのレンタルに 1000 円かかるので、合計で 6000 円ほどかかる。これらの費用は委託費から出すことを考えている。

宇都宮大学の学校祭で活動する場合、抽選により場所の確保ができれば、場所代、テント代などの費用がかかるとはならない。

出店する品は、湯ノ花の農産物(赤カブやそば、はちみつ、季節の野菜)や会津の工芸品などを現段階では考えている。出店する品や数、予算をどこから出すかなどは、集落の方々の協議が必要であると思われる。

### 5、効果

宇都宮のイベントに出店することによって得られる効果としては、まず湯ノ花のことを全く知らない人に特産品を食べてもらい、実際に集落の方と話をさせていただくことによって、湯ノ花について知ってもらうというように、湯ノ花の宣伝が期待できる。また、特産品を販売することで特産物の収益を得ることができ、集落の利益につながる。集落の方にも参加して頂き、多くの人に自分たちが作った特産品を喜んでもらえることで、湯ノ花の人の主体性の向上も期待できると考える。

赤カブの初恋漬け



奥会津のはちみつ



## (2)集落活性化案 ②着地型 「湯ノ花温泉利用改善」

### 1、現状



↑現在の湯ノ花温泉の様子。観光客にとっては利用法がわかりにくい。

上の写真のように温泉の場所や利用方法が一目で分かりづらいという課題が挙げられる。温泉の名前を書いた看板はあるものの、目立つような目印はない。これまで学生が現地調査を行っていた際にも、温泉の場所が分からないと迷っていた来訪者に、道を尋ねられることが何度かあった。

### 2、改善目的と内容

目的は来訪者が温泉に行きやすいような工夫をし、利用者の増加を促進することである。具体的な内容として2つの改善策が挙げられる。

#### (1) のれんの設置

**実施者** 学生、集落の方

- ①学生が集落の方々の意見を取り入れてデザインを行う。
- ②学生、集落の方々がデザインを個々に出し、その中から選択する。

**予算** のれんの設置には業者によって様々であり、長さや素材によって値段が大きく変わるため相談して決めることが必要となる。例として業者(のれん屋本舗)に注文した場合、のれん概算価格 (W 1 8 0 c m × H 5 5 c m) のものであると、デザインにもよるが、3万～4万円ほどかかる。

デザインを行わず業者の既製品であれば1万～2万円で買うことも可能。

※ のれん屋本舗 <http://www.noren-noren.com/original/kakaku.html>

**効果** 温泉や旅館、飲食店などに設置されているのれんは人の目がつきやすく、また一目でここに何があるのかが遠くからでも分かる。湯ノ花温泉のアピールに繋がると考えられる。

## (2) 看板の設置

**実施者** 学生、集落の方

- ①学生が集落の方々の意見を取り入れてデザインを行う。
- ②学生、集落の方々デザインを個々に出しその中から選択する。

**予算** この看板ものれんと同様、デザインは学生と集落の方々の話し合いによって決めることで、より分かりやすい看板となると考えられる。

右のような立て看板であれば、2万～3万円で製作することができる。しかし、素材や設置場所によって看板の値段が変わるため相談が必須となる。もしくは星ゆうじさんに集落にある資材を利用して看板製作をお願いします。

※看板のお医者さん

<http://drkanban.com/seisaku.php>



**効果** 先ほども述べたが、来訪者にとって湯ノ花温泉への行き方が分かりにくいことが挙げられた。そのため、道案内となるような看板を設置し、来訪者が温泉にたどり着きやすくする必要がある。設置場所は湯ノ花温泉の前、星商店(入浴券を販売している商店)、国道から湯ノ花入り口などが挙げられる。温泉利用人数の増加や温泉まちとしてのアピールに大きく貢献することが考えられる。

## V.おわりに

—これまでとこれから—

湯ノ花集落は、とても地域資源が満ち溢れた地域です。しかし、それら全部を知るには実際に訪れてみないとわかりません。なぜなら、一番の資源は湯ノ花に住んでいる人のおもてなしの心だからです。観光産業が盛んであり、民宿がたくさんあることも関係しているのか、外から来た人への対応がとても温かく感じられました。そんな素敵なお集落、湯ノ花をどうしたら盛り上げることができるか、どうしたらもっとたくさんの人に知ってもらえるかと、なんとか力になりたいと思っております。

そのためにもまずは、私たちと湯ノ花の人たちがもっと信頼関係を築いていく必要があるがあります。どんな企画をやるにあたって企画をやる側が仲良くなければ、企画自体もうまくいかないからです。今年度は、「活性化」を意識しすぎてしまい、湯ノ花の人との交流が十分でなかったような気がしました。もっと湯ノ花の人との距離を縮めていきたいです。湯ノ花の人たちも、遠慮してしまっていたことを話せていなかったかもしれないので、両者が話しやすい雰囲気作りにも力を入れたいと考えております。

プロジェクト研究という授業の一環のため、来年度の活動メンバーは多少変わることが予想されます。その際には、更なる若い力が加わったと受け取っていただければと思います。また来年度は、活動メンバーだけでなく PR 活動のスタッフや湯ノ花でのお祭りの際の観光客として、湯ノ花に興味を持ってくれた他の学生にも関わっていただけたらとも考えております。私たちはまだまだ知識も経験も乏しく、これからも多々ご迷惑をおかけすることもあるかと思われませんが、これからも楽しく、一生懸命に取り組んでまいりますので、湯ノ花集落の皆様、来年度もよろしく願いいたします。

平成 25(2013)年度  
大学生の力を活用した集落活性化調査委託事業 報告書

南会津町湯ノ花集落調査

編者：宇都宮大学教育学部 福島集落活性化し隊  
(代表 佐川拓也)

発行：2013年3月